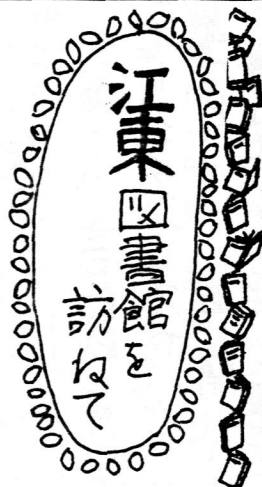


おし図書館

発行 代表 青木 和子
 青木 和子
 松本市 榎台 830-160
 TEL. 0477-336715 33884



安増 幸子

一月25日の朝、5人のメンバーと共に、東西線の南砂町駅で降り徒歩5、6分の所に建つ、いかにもアカデミックな感じのするレンガ造りの江東図書館を訪ねました。
 2千年昔に栄えたヘレニズム文化や、ローマ文化の遺跡を訪ねて驚くのは、それぞれの町に建てられた立派な図書館の存在です。
 自分達の国の隆盛を、軍事力だけに頼る事なく、人間育成こそ大事と考えた為政者、指導者層の立つ姿勢がうかがえます。
 そういう意味では、その国の図

書館を見ると、文化のレベルが分るといふものです。

私達の国は欧米に倣って入れ物である建物の数だけは揃いました。実際、どの町、村に行っても図書館があります。が中身は実に千差万別です。自分達の住んでいる町の図書館には特色も無ければ内容も低い、しかも機能を果たせないような器である事を嘆き、文化都市として誇れるものにしたいと運動している「おしい図書館」の声がまだまだ浸透していません。ことは、残念です。

さて、江東図書館の特色は、二つの地区(深川地区、城東地区)に分けて、それぞれに深川図書館を中心にして「白河子」ともい

かん「東陽図書館」「古石場図書館」「豊洲図書館」「東雲図書館」を、江東図書館を中心にして「砂町図書館」「城東図書館」「東大島図書館」「竜戸図書館」を開設して、市民が自宅から歩いて行ける所に建てられています。それぞれが特色ある資料を備えており①この地域でしか知ることのできない郷土行政資料を集めている、②膨大な雑誌新聞を分担して保存している、③視聴覚資料(カセット、CD、ビデオ等約6万点)、④広報活動の活性化、⑤除籍資料の有効活用(区内小学校その他に提供)区民祭りで一般区民に募金を通して提供し社会福祉事業に還元)これらの事業を公務員である図書館の専門員によってきめ細かく行われています。

見識をもったプロの公僕が図書館にこそ必要である事を実感しました。そして、この図書館で仕事をしている人達が、自分達の図書

館を誇りにして働いている姿に圧倒されました。

また、高齢社会にあって便利な「情報センター」としての図書館の必要が考えられていました。



私達の「図書館」のイメージは、昔の学校の図書室—あまりおもしろい本もなく、何年も前の古い本が無造作に並ぶ「付け足しの部屋」ではないでしょうか。

IT時代の今、「情報センター」としての図書館をアピールしなければならぬし、市民の発想の転換が必要です。世はまさに「契約

の時代」に入り、市民として安心して生活するためには自分で情報を手に入れなければ損をする社会になってきているのです。

江東図書館には、市民が情報を得るための自由に操作できるパソコンが何台もならんでいましたし、それを親切、丁寧に教えてくれる職員が配置されていましたが、新年度からは、構造改革の名のもとに消えていく運命にあるとの話を聞いて驚きました。民間委託になることによつて、このような専門家を確保できるのだろうかと不安です。何も知らない給料をもらうだけの人間が配属されてきたなら、江東区の大きな損失になりかねません。

本質的な優先順位を知らない政治家たちが、国の構造改革路線に乗って、現実には図書館のよ様な声の小さいところから、

予算削減をし、貴重な人材を失っていくのは残念です。

他山の石にしたいものです。



学校見学記

青木 和子

3月9日 三春町を訪ねました。「滝桜」で有名な、人口2万人の静かな城下町は、自由民権運動の先駆けの地としても知られています。

全国の学校で、暴力・自殺・いじめが相次ぎ、三春町でも例外ではなかった1980年「画一教育は諸悪の根源」として町ぐるみの教育改

革のリーダーシップをとったのは
教育長に就任した武藤義男さん
でした。

学校改革の時期とも重なり、教
育費は一時期、町予算の1/3を占
めました。(現在は町予算の1/10)

武藤さんは「既存の校舎を大規
模改造することや、改造できなく
ても、教師の意識改革が進めば、
教育改革はできます。大規模校で
も工夫次第で可能です。」「教育改
革には先生皆で議論することが非
常に大事なことです。」と、言っ
ています。

学校教育の荒廃を憂え教育の再
生が、さげはれる今、独自の教育
改革を進めるこの町は、全国の教
育関係者の注目を集めています。

中郷 小学校

幼稚園・公民館・体育館・小学
校の4施設から成るコミュニティー

スクール「中郷学校」に含まれ
ます。

地域活動の場と学習の場の違
い、児童と成人の違いを明確に
し、各施設の独自性を確保しな
がらも、相互利用できるように
へ体育館を地域に完全開放し、
公民館調理室を小学生が使用す
るなど)それぞれ配置されてい
ます。

教務センター(職員室)・校
長室・通路はガラスで仕切られ
お互いの様子や外来者の姿もよ
く見えます。学習室はオープン
スペースで、子どもたちは必要
に応じていつでも資料やコンピ
ューターに触れることができます。
建物全体はこのように非常に開
放的ですが、一方で「デン」
とよばれるら置ほどの「隠れ家」
も造られています。

学校を中心部分には、入学式・
卒業式にも使う多目的スペース

と図書コーナーがあり、多くの資
料が備えられています。

もうひとつの中心は、音楽室。
へやの前は広場、その先には、ガ
ム湖を望み、「歌声響く学校」を
目指す姿勢が感じとれました。備
えてある多種多様な楽器群にも、
目をみはる思いがしました。

沢石 中学校

教科教室方式で、生徒は毎時間
教科教室を移動します。ホームル
ームは無く、学年ごとの「ホーム
ベース」があり、荷物棚や「こた
つ」が置かれて、休み時間や放課
後は、そこでおしゃべりをした
寝転んだり、自由に過ごしていま
す。

校舎の造りはオープンスペース。
授業は25分間を単位とし、学習内
容に応じて弾力的に時間を組立て
る「モジュール学習」を取り入れ

ています。

進路指導は、学力偏重にならないよう、職業体験や高校への体験入学などを行います。思春期の大事な時期に「自己の生きかた」を真剣に考え、どのように生き、どのような進路を選択していくのかを考えることは非常に重要です。生徒一人一人が持つ人生設計や夢や将来の目標を実現できるように支援・援助することを「進路学習」の基本と位置づけているのです。



案内の先生方は

次のように

言われました

・オープンスペースや、ノーチャイムなど、ハード面で開かれれば心も開かれる。先生も生徒も、姿が全員に見えるので、情報も開かれる。

・学校で子どもの居場所がどこかにある、話せる先生がどこかにいるということの大切さ。

・モラルやエチケットなど家庭と学校と世の中のギャップを無くするという生きた学習を目指す。

・先生も、オールマイティーではないので、地域の人たちとも共通理解のための話し合いの場を、常に持つようにしている。

・子どもが、楽しく生活でき、夢を育てられる学校作りは、教師にとっても楽しく生活でき、夢を叶えられる学校作りである。



図書館・児童館も

少しだけ見学

三春町民図書館は、小さいながらも、資料は充実しており、学校での読みかかせや団体貸出

しも行っています。

児童館はハード面・ソフト面ともに充実しており、ここでも町の姿勢をうかがい知ることができました。

——X——X——

町全体で自立(律)した人間を育てようという熱い思いが強く伝わった見学会でした。



お知らせ

●5月6月、7月の例会は

第2土曜日になります

5月11日 6月8日 7月13日

●5月26日(日)

浦安図書館見学に行きます。